

# ももとせ

第419号

29年度7月

中野区立桃園小学校

## 「ふれあいから生まれるもの」

副校長 井上 江見子

平成29年度がスタートして、早3ヶ月が過ぎました。梅雨入りして、蒸し暑い日が続いています。

先月のある日。自転車で買い物に行った私は、駐輪場で鍵をかけ、歩いて数歩の入り口前で鍵を落としてしまいました。小さな鍵です。落ちた音がしたのに、鍵は見付からず。並んでいるカートの下、音がしたと思われる方面を探してみました。どれ位の時間が経過したのでしょうか。見付からない私には、5分にも10分にも感じました。そこへ「何か、落とされたのですか。」と通りがかった方が、一緒に探してくださいました。結局、その方が見付けてくださいました。どれだけ人の親切をありがたく感じたことでしょうか。ほんの数分のかかわりで、心が温まり、自分も他の誰かの役に立ちたい気持ちになりました。

目の前の子供たちにも、人を温かい気持ちにさせることのできる豊かな心を育てたいものです。豊かな心とは、他人を思いやる心、生命や人権を尊重する心などです。かかわり、ふれ合うことで、育まれるものです。

学校は、同学年や異学年児童とふれ合い、かかわり合える場所です。この3ヶ月の活動を振り返ってみました。

軽井沢移動教室は、ともに現地体験し、ともに就寝して、子供同士ふれ合うよい機会です。同学年の仲間意識がより高まり、楽しい思い出ができたことでしょうか。音読集会では、6年生が藍染体験の詩を音読しました。堂々と発表する姿に成長を感じました。音読の最後に一人一人が藍染の作品を掲げ、全校に披露しました。

PTAの読書クラブによる読み聞かせは、子供たちが、楽しみにしている取り組みの1つです。子供たちと本とのふれあいを広げてくれます。読書活動の充実により、言語感覚が磨かれるだけでなく、想像力が高まり、感性が豊かになります。

あおぎりタイムは、まさしく異年齢集団での活動です。ドッジボールや鬼ごっこ遊びをする中で、上級生は、年長者としての自覚をもった行動を、下級生は上級生へのあこがれや親しみをもった交流ができる場です。上級生は、下級生のことを思いやりながら、遊びやルールを考えます。下級生とのかかわりが、上級生の心を育てることにつながるのです。下級生は、上級生にかかわり、進行の仕方だけでなく、他学年とかかわり方や接し方を学びます。

先月、2年生が「町たんけん」を行いました。地域の方とかかわり、ふれ合うことができる生活科の学習です。保育園や児童館、郵便局や消防署、花屋さんやパン屋さんなどのお店を訪ね、働く様子を見学させていただきました。地域の方たちと直接ふれ合うことができました。2年生は、事前に考えていた質問をしました。働く人たちの話を聞いて、新しい発見をすることができました。地域の方々のご理解とご協力に感謝しております。

夏季休業中は、親子でふれ合える時間です。読書や体験など、ふれ合いを通して、豊かな心が育まれることを願っております。

7月の学校公開では、桃園スマイルランドが実施されます。保護者、地域の方々、幼稚園児・保育園児と色々な年代の方とふれ合う交流ができます。多数の保護者・地域の方とふれあいができますよう、ご来校をお待ちしています。

6月から水泳指導が始まりました。  
今月10日と14日に体力向上の一貫として、前田康輔選手がアスリート先生として来校します。  
※桃園小学校のあゆみを調べると、昭和12年に水泳プールが新設されていました。

### 今月のめあて

【生活】 後かたづけをしっかりとやろう

【保健】 夏を元気に過ごそう

【給食】 衛生に気をつけて食事をしよう

【安全】 清掃道具を正しく使おう

